

●『共生の社会学——ナショナリズム、ケア、世代、社会意識』

編者：岡本智周・丹治恭子

発行：太郎次郎社エディタス／2016年4月

価格：本体 2,500 円＋税

判型：四六判・上製、272 頁

ISBN：978-4-8118-0792-8

【内容紹介】

執筆者の半数は、かつて『共生と希望の教育学』（筑波大学出版会）の刊行に参加しました。同書は幅広い読者に受け入れられましたが、「そもそもなぜ共生しなければならないのか、なぜ共生について考えなければならないのか」「我々は問題状

況に対してどのように関わることができるのか」といった問いも、寄せられることになりました。これらの問いに応えるべく、共生についての議論をさらに深めたのがこの本です。

本書は、「ナショナリズム」「ケア」「世代」「社会意識」の4つのパートからなっています。それは、従来からの多文化社会論がマイノリティからの社会的要請を体系化するうえで、「ジェンダー」「障害」「世代」「ナショナルリティ」の問題系に沿って思考を進めてきたからです。このうち「ジェンダー」と「障害」を論じるにあたっては、具体的な叙述の対象が子育て・介助・介護などの営為となることから、「ケア」の問題についての思考を束ねることになりました。また、最後に「社会意識」のパートを設け、これらの社会的共生の課題が人びとの意識のなかではどのように捉えられているのかを検討しました。

共生への志向性は、社会における法や制度といかなる関係にあるのか。具体的には何がその志向性にとっての障壁になっているのか。現状の社会のなかには共生のための利用可能な資源がどのようにあるのか——これらのことを探索し、描き出しています。

【出版社の書籍紹介ページ】

<http://www.tarojiro.co.jp/product/5496/>

【編著者紹介】

岡本智周：筑波大学人間系教育学域准教授。専門分野は教育社会学、共生社会学、ナショナリズム研究、共生社会意識研究。主な著作に、『共生社会とナショナルヒストリー』（勁草書房）、『歴史教科書にみるアメリカ』（学文社）、『国民史の変貌』（日本評論社）など。

丹治恭子：立正大学仏教学部准教授。専門分野は教育社会学、幼児教育・保育学、ジェンダー論。主な著作に、『ケアのはじまる場所』（共著、ナカニシヤ出版）、『共生と希望の教育学』（共著、筑波大学出版会）など。

